

平成24年3月1日

第96号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



春のたより菜の花（千葉県富津市）

（提供者：マザー牧場 緒方準一）

「森林・林業再生に向けたチャレンジ」

～平成23年度 関東森林管理局における取組について～

企画調整室

私と国有林 「山桜の群生を守って」

加治川さくらの里づくりの会 事務局 布川 功 氏



2011・国際森林年

『森林・林業の再生に向けたチャレンジ』 平成23年度 関東森林管理局における取組について

企画調整室

関東森林管理局では、「森林・林業再生プラン」の実現に向け、森林施業の効率化や新たな施業方法等技術の開発、導入、森林資源の活用、生物多様性の保全等、地域林業の振興に貢献するため、各森林管理署等において一署一課題を掲げ、様々な取組にチャレンジしています。

平成23年度に行った関東森林管理局のチャレンジについて、その一部をご紹介します。

森林施業の効率化、低コスト化

林業が生業として成り立つためには、森林施業の効率化、低コスト化が重要な課題となっており、関東森林管理局では、高性能林業機械や低コスト路網の整備などを取り入れた「低コスト作業システム」の開発、普及に取り組んでいます。

茨城森林管理署及び日光森林管理署では、県や市町村、林業事業者など林業関係者を招き、列状間伐と高性能林業機械による低コスト作業の現地検討会を開催するなど、技術の普及を図りました。
また、森林共同施業団地において

は、民国連携の下、路網整備等に着手するとともに、低コスト化の現地検討会や販売面での連携検討などに取り組みました。
（「森林共同施業団地」については、3ページ「森林共同施業団地」が各署で誕生」を参照）



森林共同施業団地で現地検討会を開催
(福島県、笹森山地区)

新たな造林方法、施業方法の開発導入

新たな造林方法として、福島県や群馬県内においてコンテナ苗を導入し、植付作業の工程や生長量等のデータ収集、分析など、低コスト造林の検証に継続して取り組んでいます。

群馬森林管理管内では、コンテナ苗と同時に少花粉スギも導入し、下刈作業の省力化を検証しています。
コンテナ苗は、普通苗に比べ植付作業の効率が良いことがわかっていますが、植栽後の成長量や気象・獣害等の影響など今後も引き続きデータを蓄積、検証する予定です。



コンテナ苗植栽現地検討会
(群馬森林管理管内)

また、静岡県の特産森林管理署では、台風による風倒被害地において、多種の広葉樹を密植、混植するなどの造林方法を取り入れ、広葉樹による森林造成手法の検証に取り組んでいます。

生物多様性の保全

平成16年より取り組んでいる「赤谷プロジェクト」では、平成23年3月に策定した「赤谷の森管理経営計画」に基づき、生物多様性の復元に

向けて取り組んでおり、今年度はスギの人工林内に「自然林復元試験地」を設定しました。

平成23年6月に世界自然遺産に登録された小笠原諸島では、外来植物の駆除事業に継続的に取り組むとともに、世界遺産登録による観光客増加に対し、森林生態系保護地域内の指定ルートと利用ルールの周知に努めました。

新潟県の中越森林管理署では、イヌワシの生息環境を保全するため、人工林内に餌場となる伐採空間を配置し、イヌワシの採餌、餌動物の生育や生息の変化について検証しています。

また、近年被害が増えているクマによる樹木の剥皮に対し、会津森林管理署、日光森林管理署、埼玉森林管理事務所において、様々な防除対策の実施及び検証を行うとともに、専門家や関係機関等と検討会を開催しました。

森林資源の活用

関東森林管理局では、間伐による森林整備等に伴い、これまで搬出されず林地に残されていた枝葉や根株などの林地残材の有効活用を推進しています。

福島県内では、専用のコンテナや運搬車などを導入し、林地残材を低コストで搬出するシステムづくりに取り組みました。



林地残材専用運搬車

また、静岡森林管理署では、これまで利用されていなかったウラジロモミの間伐材について、小径木はチップとして、中径木以上は梱包用や建築用の木材として需要を開拓し、資源の有効活用に努めました。

森林林業に係る環境教育

2011年は、国連が定めた国際森林年であったことから、森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることなどを目的に、各署等で様々な記念イベントが開催されました。

山梨森林管理事務所では、「国際森林年の集いin山梨」として、木質バイオマス利用をテーマとしたパネルディスカッション及び間伐作業地等の見学会を開催し、森林・林業への理解を深めていただきました。

静岡県にある大井川治山センターでは、小中学生を対象とした「治山教室」、高校生・大学生を対象とした「治山工事施工現場見学会」を開催し、森林の役割や治山事業の普及を図りました。

人材育成

「森林・林業再生プラン」を踏まえ、本年度より「准フォレストアライメント育成研修」及び「林道専用道技術者研修」がスタートしました。関東森林管理局では、利根沼田署に研修拠点をおき、国有林のフィールドを提供するなど人材育成に貢献しました。

民国連携・地域林業再生意見交換会

地域林業の再生にあたり、民有林関係機関（県、森林組合等）との連携を深めるため、情報交換、意見交換する場を設けることとし、平成23年度は、茨城県、栃木県、群馬県の3箇所で開催しました。意見交換会では、各地域での森林・林業を巡る情勢や地域林業再生に向けた課題、取組事例など情報交換や現地視察等を行いました。

これからも、森林・林業の再生に向けて、関東森林管理局の森林資源や組織、技術力を活用し、国民の財産である国有林を守るとともに、林業経営、技術の向上に貢献できるように努力して参ります。

『森林共同施業団地が各署で誕生』

計画部 計画課

森林共同施業団地とは、民有林と国有林が隣接する地域の森林において、間伐等の森林整備の一体化を図り、地域一体となった路網整備等による低コスト化、木材生産において販売面や発注面でのロット拡大によるスケールメリット効果が発揮されるよう設定するものです。

麓地域森林整備推進協定」を締結しました。協定の締結に至るまでの関係者のご尽力に改めて感謝するとともに、事業計画に基づき民国が連携して路網整備やロットの拡大等を図り、森林整備のモデルとなるよう取り組んで参ります。

これまで、関東森林管理局管内では、伊豆森林管理署、福島森林管理署及び白河支署の3箇所で開催した共同施業団地を設定し、それぞれ事業計画に基づき取り組みが進んでいます。このような中で、年末以降、新たな森林共同施業団地が各署で誕生しました。

群馬県内では、昨年12月22日に県内初となる「三俣地区森林整備推進協定」を東吾妻町長、吾妻森林組合長、吾妻環境森林事務所長及び吾妻森林管理署長との4者により、1月12日には、「手白坂地区森林整備推進協定」を神流川森林組合長と群馬森林管理署長により締結しました。

また、2月10日には、静岡県の富士宮市長、富士宮市上井出財産区管理者、富士農林事務所長及び静岡森林管理署長の4者により「富士山西

平成23年度 新たに誕生した森林共同施業団地 (単位: ha)

	区域面積	森林整備面積
三俣地区 (群馬県)	104	60
手白坂地区 (群馬県)	51	40
富士山西麓地域 (静岡県)	3,933	588

小笠原諸島の国有林野(第4回)

小笠原諸島森林生態系保護地域

小笠原諸島森林生態系保全センター



世界遺産ロゴマーク

小笠原諸島世界自然遺産を後世に残すために

小笠原諸島は、昨年6月に世界自然遺産に登録されて以降、観光客等の来島者が、確実に増加しています。おがさわら丸の乗船客数(表1)について、平成21年度以降を月別に比較すると、夏期の増加は僅かですが、9月から12月までをみると、23年度は、21・22年度の同時期に比べ、

増加し、6月から12月までの総数は、約5割増しの状況となっています。また、森林生態系保護地域内の指定ルートの利用者数は、21・22年度に対し、世界自然遺産に推薦されて以降、増えており、23年6月から12月までの総数(表2)は、約8割増しの状況となっています。特に、父島では、東平にあるアカシラカラスバトサンクチュアリ、

表1

おがさわら丸の乗船客数(平成23年6~12月) (単位:人)

Table with 9 columns: 区分, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 12月, 計. Rows for 21年度, 22年度, 23年度.

注:上記数字は、観光(観光、釣り、ダイビング、その他)

表2

指定ルート等の利用状況(平成23年6~12月) (単位:人)

Table with 9 columns: 区分, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 12月, 計. Rows for 21年度, 22年度, 23年度.

注:指定ルートとは、森林生態系保護地域に生息・生育する貴重な動植物の保護と観光などによる利用の調整を図るため、立ち入り可能なルートを選定したものです。

島南部、千尋岩への指定ルートの利用者が多くなっています。母島では、石門へのルートが人気ですが、体力等を考慮して、比較的利用しやすい、乳房山、南崎の遊歩道の利用者が多いようです。乳房山遊歩道沿いには、小笠原固有植物のハハジマノボタンやワダンノキ、シユスランなどを見ることが出来ます。

また、希少動物のアカガシラカラスバトが少しずつ増えてきており、母島では、一般の方の確認情報も母島観光協会に寄せられています。餌としているシマホルトノキ等の実が落ちる時期には、南崎や乳房山の遊歩道を散策中にカラスバトに出会うことが出来るかも知れません。森林生態系保護地域内の利用にあたっては、指定ルート以外の区域に入ることを規制していますが、特に母島においては、希少な陸産貝類が、オガサワラビロウやタコノキの落ち葉の裏などに生息していますので、落ち葉などを踏むことのないようお願いいたします。

今後とも、世界自然遺産の小笠原諸島の固有動植物や、森林生態系を維持していくために、林野庁、環境省、東京都、小笠原村の各関係機関が連携・協力して外来動植物種の駆除事業を行い、計画的な保全・管理を進めて参ります。



入港中のおがさわら丸



南島から見た千尋

国有林間伐推進コンクールで 林野庁長官最優秀賞受賞 森林整備部 販売課

林野庁主催の平成23年度国有林間伐推進コンクールにおいて、吾妻森林管理署管内の「四万林業協業組合（群馬県吾妻郡中之条町）」が林野庁長官表彰の最優秀賞を受賞されました。

受賞した事例は、間伐作業において、ウインチ（ワイヤーロープの巻き上げ機）付き小型グラップル（丸太を挟んでつかむことができる機械）を使用することで従来よりも作業にかかる人員を減らしたこと、丸太の運搬用機械についてもグラップル機能をなくして運搬だけに特化した運搬量を増量させたことによって、生産性が向上したことが評価されたものです。

最優秀賞受賞につきましては、当森林管理局管内の事業体が2年連続

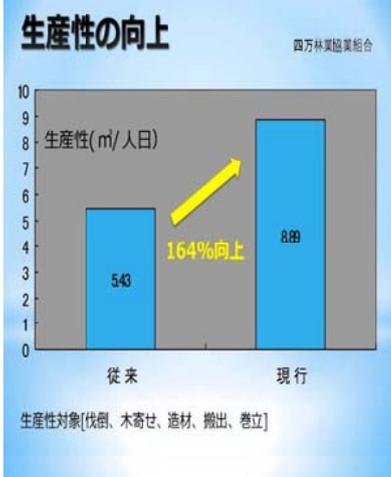
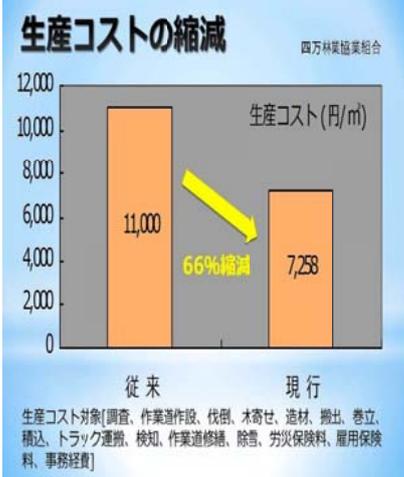


受賞された四万林業協業組合岡本代表理事（右）、沖国有林野部長（右から二人目）

となりました。

そのほか優秀賞を受賞された方々は、次のとおりです。

- ・ 高性能林業機械の導入と専門オペレーターの配置による生産性向上と低コスト化の実現「有会社愛宝産業（中部森林管理局管内）」
- ・ 「低質材を含めた間伐材の全量搬出を目指した車両系低コスト作業システムの実践」有会社杉下木材（近畿中国森林管理局管内）
- ・ 「高性能林業機械の導入など徹底的なコスト縮減の実現」株式会社永田林業（九州森林管理局管内）



森林カレッジ 受講生募集 高尾森林センター

「森林・林業を学ぶ」
高尾の森で講義&体験

「森林カレッジ」は、林野庁高尾森林センターが一般の方を対象に、森林・林業を理解していただくために開催する森林・林業講座です。

高尾山の国有林で森の見方、下刈・間伐・枝打ち・炭やきなどの体験、また、研究者や専門家から森の働き、森の現状や都市と山村の交流活動の講義を行います。

森林ボランティアや森づくりに興味のある方、自然の中でいい汗を流したい方にお勧めします。

募集人数 50名（応募者多数の場合は抽選となります。）

対象者 自然や森林・林業に興味がある18歳以上の健康な方で、全日程5回の講座に参加できる方

申込方法 往復はがきに、①住所②氏名③年齢④職業⑤電話番号と返信面の宛名を記入の上、高尾森林センター「森林カレッジ」係までお申し込みください。

申込締切 平成24年4月21日(土) 必着

参加費等 ①年会費1,000円②講座

参加費等

I 森を見る 平成24年5月19日(土)

講義:「森林の見方」
地球環境問題と森林
農学博士 藤森隆郎氏
実習: 森林施業・現地見学

II 下刈り 平成24年7月28日(土)

講義:「森林に学ぶ 森づくり ことづくり 人づくり」
東京農業大学教授
宮林茂幸氏
実習: 下刈り体験

III 間伐 平成24年11月17日(土)

講義:「樹木のしくみ」
樹木の仕組みや成長方法のなぞ
元多摩森林科学園長
三輪雄二郎氏
実習: 間伐体験と薪割り

IV 枝打ち 平成25年1月19日(土)

講義:「森林の役割」
我が国の森林の現状・森林の働き
高尾森林センター所長
田中昌之
実習: 手工具の扱いと枝打ち体験

V 炭やき 平成25年3月9日(土)

講義: 炭やきは地球を救う
炭の効用と炭に秘められた力
国際炭やき協力会
会長杉浦銀治氏
実習: 伏せやき・ドラム缶窯
を使って炭づくり体験



参加費 講座毎に500円
お申し込み・お問い合わせ先
高尾森林センター

〒193-0844 八王子市高尾町2438-1

電話番号 050-3160-6040

FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.naf.go.jp/kanto/fakao/index.html>

私と国有林

「山桜の群生を守って」

加治川さくらの里づくりの会 事務局 布川 功



国指定天然記念物「とちだいり椽平桜樹林」

国指定天然記念物「とちだいり椽平桜樹林」の群生地大峰山（標高399.5m）は、新潟市中心街より北東へ約40kmの新潟県下越地方の新発田市に位置し、南北13kmで日本でも最も小さい楕円山脈の主峰の一つにあります。

この大峰山北側斜面の通称「大沢」と言われている沢を挟む一帯は「椽平」と呼ばれ、大峰登山道の途中にある「一本松展望台」からの眺めは、芽吹き始めた木々の色と山桜のコントラストが素晴らしい景観を見せてくれます。一説によれば、何万年前に自生した桜樹が老木となり枯れ、その根元から実生が芽吹き生長し、それを繰り返しながら長い年月の間に幾百種もの変種が生まれたと伝えられています。中でも「オオオクチョウザクラ」「カスミオクチョウザクラ」「オオミネザクラ」の三種は学名登録されており、これに隣接したエリア約73haを「ふれあいの森」と名付け、「下越森林管理署」と私たち「加治川さくらの里づくりの会」で平成12年「ふれあいの森における森林整備等の活動に関する協定書」を交わし、ボランティアを募り保護活動を開始しました。



作業に奮闘中



作業指示を真剣に聞くボランティア

この場所一帯は、戦前から昭和30年頃にかけて山桜を保護しながら燃料材として伐採され、また、炭焼きも行われ、結果として山桜にとって良い環境になったと思われず。しかし、近年は他の樹種が繁茂し山桜の樹に覆い被さるようになり、成木はもとより日も射さないため実生も育たないような環境悪化が危惧されるようになりました。一方で、私たちの会も高齢化が進み山での活動には限界があるとの意見もあり、平成17年秋の事業をもって一旦休止としました。その後、毎年椽平に入り現地の実情を写真に収め、新発田市役所や新発田地域緑化推進協議会総会の席で実情を訴えてきました。そして、平成22年6月には新発田市の担当者として、この年の10月中旬に再びボ



作業を終えて充実感に浸る一同(前列右から3番目筆者)

ランテニアを募り、総勢40人の参加の下、山桜の保護活動を再スタートすることができました。下越森林管理署や新発田地域緑化推進協議会のご協力を得る中で、特に緑化推進協議会のスタッフの方々には、急斜面での作業に備え歩道を整備していただき、今後、この地の保護活動に明るい展望が開けた気持ちで一杯でした。平成23年には、6月と10月の2回に亘り、各方面からのご協力を得て無事に保護活動を終えることができました。今後、皆様のご協力の下、先人が苦勞されて国指定を受けたこの貴重な天然記念物の大峰山山桜樹林帯を加治川さくらの里づくりの会員の力を合わせて守っていかねければなりません。

森づくりの最前線

群馬森林管理署 松井田森林事務所 森林官 田中 直己



上毛三山の一つ妙義山

私が勤務している松井田森林事務所は、群馬県の西部に位置する安中市松井田町に所在し、安中市、富岡市の一部の国有林約5,300㍍を管理しています。

管内には赤城山、榛名山と共に上毛三山に数えられる妙義山があります。妙義山は、奇岩や怪石が林立する男性的な山ですが、登山コースには、初心者でも安心して歩けるコースから険しい岩場が続く熟練者向けのコースがあり、多くの登山者で賑わいをみせており、一帯を「妙義自然休養林」として管理しています。また、急勾配な山ですが、山ろくから中腹にかけてスギやヒノキが植栽されている箇所があり、先人達には感心させられます。

また、安中市松井田町と長野県軽井沢町との境には古くから難所で知られる碓氷峠があります。徒歩の時代は「旧中山道」、現在では「国道18号線」「碓氷バイパス」「上信越自動車道」と、次々に整備されてきました。

国有林内を通る旧中山道は、現在、遊歩道として利用されており、毎年5月には標高差1,000㍍を駆け上がる「安政遠足侍マラソン」が開催されます。

参加者の半数以上は仮装をしているというユニークな大会です。是非、参加されてみてはいかがでしょうか。



様々な衣装で走るランナー達

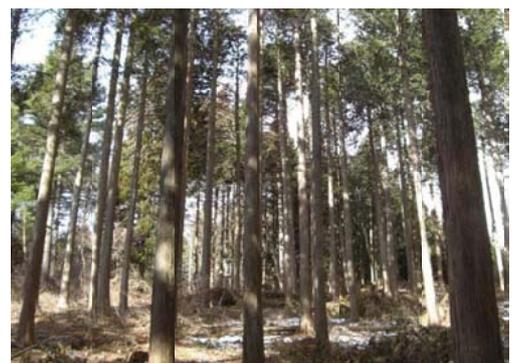
一方、長野県に通じていた信越本線は、横川から篠ノ井（長野県）駅間が廃線となっています。特に廃止となった旧線は、急勾配を登るためにアプト式ラックレールが採用され、橋梁や隧道にはレンガが使用されていました。めがね橋のたもとに立って上を見上げると、高さに驚くとともに、アーチ部分の精巧なレンガの組み合わせが圧巻です。周囲の国有林は、国道18号沿線と合わせ「碓氷峠風景林」として多くの観光客に親しまれています。廃止された施設が再利用され、自然と歴史を一度に体験できる限られたスポットとなっており、駐車場等の施設整備が進められていますが、国民視点に立った利活用となるよう努めていきたいと考えています。



レンガ造りの碓氷第三橋梁(通称めがね橋)

さらに管内には「小根山森林公園」があります。約100年前から外国や日本各地の樹木の試験研究が行われてきた森林で、現在は見本林となっています。混み合った林分は間伐等の手入れを実施するなど、訪れる人たちの癒しの場として整備を進めています。

当森林官になって2年目になりました。一つでも多くの現場に足を運び、そこに必要とされている施業を実施していけるよう努力していきたいです。



間伐により明るくなった108年生のヒノキ林

管内のいちおしスポット



まめんぼらてんぱいえん

麻綿原天拝園

■ 千葉森林管理事務所 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tiba/index.html>
〒263-0034 千葉県千葉市稲毛区稲毛1-7-20
TEL:043(242)4656(代表) FAX:043(242)4658



筒森自然観察教育林

千葉県のほぼ中央、大多喜町会所にレクリエーションの森「筒森自然観察教育林」「麻綿原風景林」があります。

筒森自然観察教育林には、大正時代に造成した樹木の見本林(3畝)があります。ここには、国内外から約54科179種の樹木が集められており、四季を通じて樹木観察や森林浴の場として親しまれています。

見本林を通り過ぎ、しばらく行くと「麻綿原天拝園」に至ります。ここは、南房総国定公園及び千葉県立養老溪谷奥清澄自然公園に属し、標高は365mです。

展望台からの眺めは360度の大パノラマとなっており、特に太平洋から昇る「初日の出」は富士山よりも1分早く、日本本土で一番早いといわれていることもあり、お正月には多くの方が訪れます。



麻綿原天拝園からの眺望

この園の中心に位置するのが「妙法生寺」です。妙法生寺は、建長5年(1253年)に日蓮聖人が昇る朝日に向かい「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えたとの言い伝えがあり、寺の一角にある「大日天堂」には朝日日蓮大菩薩立像が安置され、また、「持佛堂」には日蓮座像が安置されています。

ここ妙法生寺は別名「アジサイ寺」とも言われており、境内には、法華経の文字数(69,384字)に合わせ、昭和26年から約7万本を目標に「南無妙法蓮華経」と唱えながら植栽(現在約5万本)されてきた日本最古のあじさい園の一つです。また、「本あじさい」の一種で花房が大人の顔ほどとなるものや色が白から淡い青色へと変化するものなどもあり、アジサイの開花は気温差から平地より大分遅く、7月上旬が見頃で、千葉県で一番遅くまであじさいを楽しめる場所となっています。



妙法生寺(アジサイ寺)

麻綿原天拝園一帯は、麻綿原風景林に指定されているところでもあり、一年を通じてその季節に合った様々な景色がご覧になれます。皆様もぜひ訪れてみませんか。

編集発行所
FAX 027(027)2101159
TEL 027(027)2101158
総務課
関東森林管理局

アクセス

住所：千葉県夷隅郡大多喜町筒森1749
電車：JR安房天津駅から清澄寺行きバス20分
徒歩：清澄寺下車徒歩1時間

車(東京方面から)
：市原ICより国道297号線で上総牛久まで、そこから県道81号・178号線を勝浦方面へ直進し、途中会所トンネル手前を右折し会所見本林を通り抜けると現地です。

(千葉森林管理事務所 広報広聴連絡官 高橋 恒夫)

